

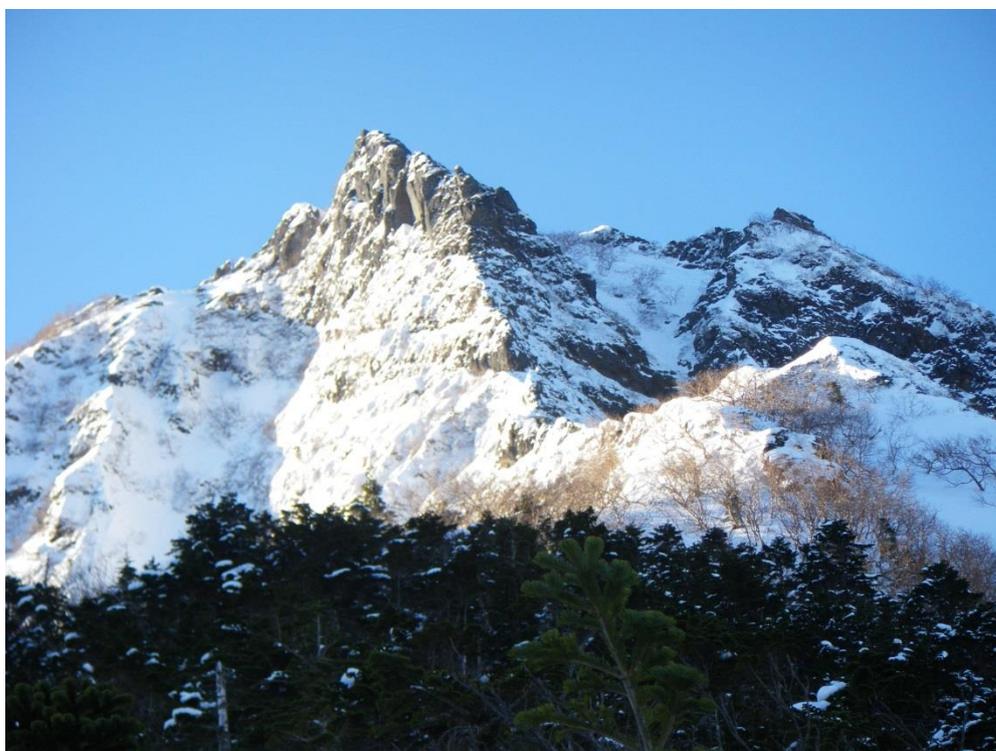
八ヶ岳 阿弥陀岳北西稜

日 時 2月21日(土)

メンバー L小池、非会員1

時 間 03:20 美濃戸口～06:20 北西稜取付～09:00 小ピーク～15:00 阿弥陀岳頂上～
16:10 行者小屋～19:10 美濃戸口

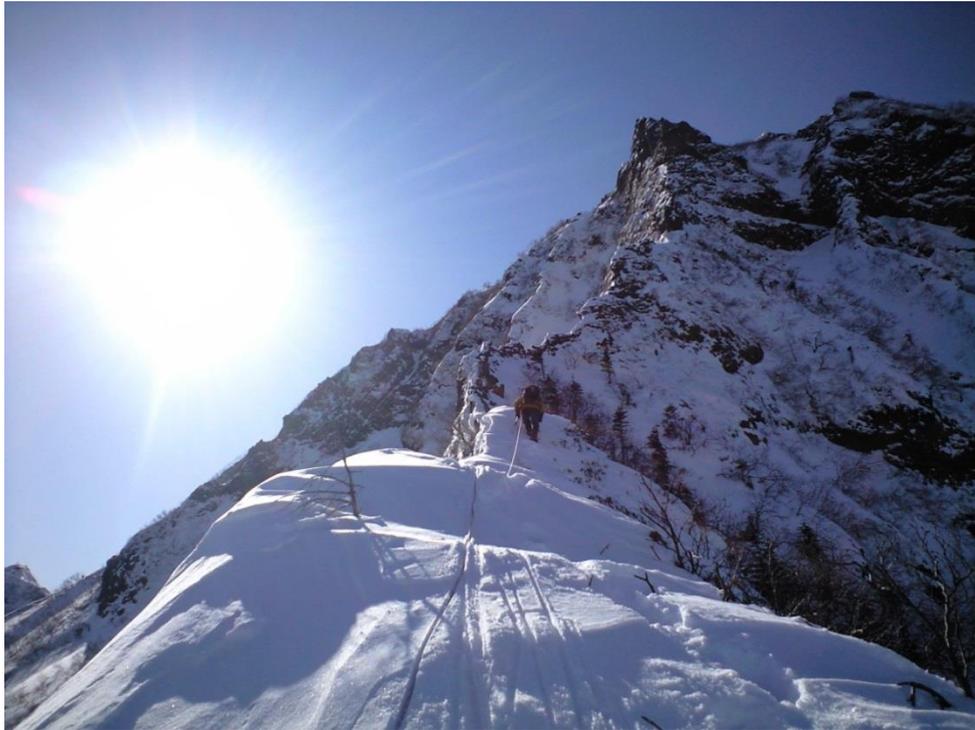
土曜日に下部にトレースを付けて日曜日に登る計画にしていたのですが、天気予報が日曜日の悪天を告げていたので、土曜日帰りに計画を変更しました。低気圧が来る前の冬型が緩んだ状態だったので、風もなく天候的には最高のクライミング日和でした。



(正面が北西稜、中央のピークは摩利支天峰でその左が阿弥陀岳頂上?)

金曜の夜、小淵沢駅でパートナーと合流し美濃戸口へ向かう。今回のパートナーは東京の会の会員。美濃戸口の八ヶ岳山荘の仮眠室で明日に備え、早々に寝た。

2時起床、3時20分出発、ヘッドランプの明かりを頼りに行者小屋への道を進む。空が白みかけた頃、北西稜の分岐に着く。取付には踏み跡があり、ラッキーと思ったのもつかの間、飽きっぽい人がトレースをつけに来たのか、15分くらい登ったところで終わってしまう。しばらくはつぼ足でねばったが、まだ先も長そうなのでワカンを付ける。八ヶ岳の雪は乾雪なので、ラッセルがキツイ。2人だったので、森林限界の稜上(小ピーク)に出るまで2時間半くらいかかってしまった。



(小ピークからロープを付ける)



(ここを抜けると上部岩壁基部)

稜線の小ピークから本日のハイライトが始まる。左右がスッパリと切れた始めの岩稜は右に巻き気味にルートをとるが雪が不安定だったので、ここからロープを出す。第一岩壁の右を回り込み、3級ぐらいの氷雪壁を登ると上部岩壁の基部に出る。傾斜もあり、根性の無い雪だったので、アックスに体重をかけるのに若干の勇気がある。

核心部手前のピッチは、かぶり気味の岩場の基部を微妙なバランスで、下がすっぱり切れた雪のバンドを恐る恐る足場を作りながらトラバースする。

最終ピッチはドライツーリングが楽しめるとか書いているガイドブックもあるが、私のカジタくんでは歯が立たず、アブミをカランロンいわせて登る。抜け口はちょっとかぶり気味で、1本ロープを背負ったままだったので、引きずってくれば良かったとちょっと後悔した。

核心部を抜けると傾斜も無くなる。風の無いところで大休止し頂上を目指すが、正直疲れた身体が重い。御小屋尾根には踏み跡が無く、頂上直前ではまさかの懸垂下降をした。頂上着 15 時、天気だけは最後まで我々に味方してくれた。

ひさびさに北西稜を登りましたが、取付から頂上まですべての部分で平均以上の技術を求められるピリッとしたルートだと思います。



(核心部を抜けたところ)



(頂上に向けて・・・)